

ニュースレター雪氷北信越

No.82 2001 年 12 月 10 日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行
<http://www.seppyo.org/~hse/>

目次

< 案内 >

- ・雪の結晶づくり講習会
- ・新潟地区積雪調査法講習会

< 報告 >

- ・日中河川技術シンポジウム 2001 - 中国黒龍江省訪日団を迎えて -
- ・立山カルデラ砂防博物館 第 7 回企画展「雪 SNOW」? 知られざる立山の雪の世界?

< その他 >

- ・庶務担当の連絡先変更のお知らせ
- ・12 月、1 月、2 月のカレンダー (北信越支部地域情報)

< 案内 >

行事名：雪の結晶づくり講習会

内 容：平松式人工雪発生装置を使った雪の結晶とダイヤモンドダストの実験方法を講習します。

日 時：12 月 23 日 (日) 午前 10 時 30 分～、午後 1 時～、午後 3 時～

会 場：長岡市立科学博物館展示室 (長岡市柳原町 2-1)

対 象：小学生～一般 (小学生は保護者同伴で)

定 員：各回 12 人

参加料：150 円

持ち物：手袋・懐中電灯・筆記用具

申込み：12 月 21 日 (金) までに長岡市立科学博物館 (0258-32-0546) へ

< 案内 >

2001 年度 新潟地区積雪調査法講習会

講習題目：積雪調査法

講習内容：積雪の層構造の観察、雪温、雪粒、密度、積雪荷重、硬度、せん断応力、含水率など

日 時：2002 年 2 月 23 日 (土) 午前 9 時 ～ 午後 3 時 30 分

8:50～ 9:20 受付・受講費受領・班分け・昼食申し込み

9:30～11:30 講義（調査法概要と雪氷測器の解説）

13:00～15:30 野外実習

会 場：防災科学技術研究所 長岡雪氷防災研究所（長岡市栖吉町前山 187-16）

講師陣：遠藤八十一氏、以下学会員数名

定 員：16 名（先着順）

申し込み：〒940-1103 長岡市曲新町 2-12-11 田村雪氷計測研究所

田村 盛彰（Tel:0258-33-3820, Fax:0258-33-3821）へ

2 月 13 日（火）までに、氏名、連絡先住所、TEL/FAX、会員種別（一般、正会員、学生）を記載し、郵送又は FAX にて下記へ申し込みください。

受講費：テキスト・材料費として、一般=3000 円、正会員=2000 円、学生=2000 円

講習後、修了証を交付します。申し込み者には改めて詳細な案内をお届けいたします。

< 報告 >

日中河川技術シンポジウム 2001 - 中国黒龍江省訪日団を迎えて -

日 時：2001 年 7 月 18 日（金）午後 1 時 15 分～4 時 40 分

会 場：長岡技術科学大学 環境システム棟 7 階会議室

主 催：長岡技術科学大学、(社)北陸建設弘済会、(社)日本雪氷学会北信越支部

参加者：59 名

（プログラム）

第一部 大陸の川と流出解析

『分布型水文モデルを用いた水利用シミュレーション』陸 旻皎（長岡技術科学大学）

『松花江流域支川の分布型流出モデルによる流出解析』劉 景時（長岡技術科学大学）

『黒龍江省の氷ダムの形成分析』崔 永生（黒龍江省水文水資源観測局）

第二部 雪と融雪洪水

『本州中部山岳地の積雪調査』川田邦夫（富山大学極東地域研究センター）

『融雪洪水 - 雪泥流 - 』小林俊一（新潟大学積雪地域研究センター）

『融雪出水の形態と洪水予測手法について』早川典生（長岡技術科学大学）

『北陸地域の融雪流出予測の実際』五十嵐晃、安原達（北陸地方整備局信濃川工事事務所）

標記シンポジウムが、長岡技術科学大学、(社)北陸建設弘済会、(社)日本雪氷学会北信越支部の共催で、2001 年 7 月 18 日 13:15? 16:40、長岡技術科学大学 環境システム棟 7 階会議室で行われた。本シンポジウムは中国黒龍江省水利庁代表団を迎えて行われたものであり、中国黒龍江省の珍しい“氷ダム”の紹介が中国側からあった。雪氷学会からは川田会員の富山の雪の話、小林会員の雪泥流の紹介があった。参加者は、雪氷学会会員を中心に 59 人を数える盛況だった。

（早川典生 理事 記）

< 報告 >

立山カルデラ砂防博物館

第7回企画展「雪 SNOW」？知られざる立山の雪の世界？

期 間：7月20日～9月24日

会 場：立山カルデラ砂防博物館

主 催：立山カルデラ砂防博物館 （後 援：日本雪氷学会北信越支部）

参加者：14,781 人（総観覧者数）

立山は世界でも有数の豪雪地帯です。企画展では、知られざる立山の雪の世界を、以下の3点に焦点をあて詳しく紹介しました。

雪の壁： 室堂平（2450m）の雪の壁を実物大の7mの高さの模型で再現しました。

また、雪の大谷の20mの雪の壁写真を半分に縮小して展示しました（提供 岩橋崇至氏）。雪の壁には一冬の気象情報が詳細に記憶され、その中には遠く大陸から飛来した情報も多く含まれます。これらを映像やパネルで紹介しました。雪の壁の圧倒的な高さ会場からは驚きの声が上がっていました。

立山の雪の一生（雪結晶から氷河氷まで）： 立山の雪には、美しい雪結晶から千年以上長生きする氷河氷までいろいろな姿がみられます。これらを、降る雪、積もる雪、長生きする雪にわけて、映像やパネル、実物等で紹介しました。特に、内蔵助雪渓で発見された日本最古の1700年前の雪（氷河氷）を実物展示しました。立山に氷河があった頃の氷です。また、同時代の南極の氷を比較展示しました。

ホウ雪崩： 雪の脅威として、毎冬発生するホウ雪崩を貴重な映像や資料で紹介しました。さらに、実際には見ることが難しい雪崩を、ピンポン球1万個を使った模擬実験で再現しました。ピンポン球雪崩実験は170回行い、約8,000人の方に体験していただきました。迫力ある体験型模擬実験としてたいへん好評でした。

他にも、立山で最近発見された貴重な永久凍土や、雪の中で生息する珍しい昆虫、微生物の姿等を紹介しました。来館者は、立山の雪の膨大な量に圧倒されるとともに、雪結晶から氷河氷までの多様な雪の姿に触れ、驚きの声が多く聞かれました。

さらに8月11～12日には、雪氷学会会員の納口恭明氏、西村浩一氏、山田高嗣氏の3名を講師に迎え、特別企画「雪のサイエンスショー」を開催しました。大小様々な雪崩実験が紹介され、参加者からは感嘆の声が聞かれました。期間中の総観覧者は、14,781人に達しました。

本企画展を開催するにあたり、雪氷学会の多くの方にご協力いただきました。感謝申し上げます。

（飯田 肇 幹事 記）

庶務担当の連絡先変更のお知らせ

12 月から庶務担当幹事の所属が変わり 連絡先が下記へ変更になりましたのでお知らせします。ご不便をおかけしますが、よろしくお願いします。（なお、メールアドレスについては本原稿作成時点では未定ですので、ここにお知らせできません。）

庶務担当：竹内由香里

所 属：森林総合研究所十日町試験地

連絡先：〒948-0013 十日町市辰乙 614

Tel: 0257-52-2360 / Fax: 0257-52-7743

Email: *****

= 12 月、1 月、2 月のカレンダー（北信越支部地域情報） =

12 月 7 日（金）	第 2 回北信越支部理事・幹事合同会議（14:45～17:30） 長岡技術科学大学 機械系会議室（長岡市上富岡町 1603-1）
12 月 23 日（日）	雪の結晶づくり講習会（10:30, 13:00, 15:00） 長岡市立科学博物館展示室（長岡市柳原町 2-1）
2002 年 2 月 23 日（土）	新潟地区積雪調査法講習会（9:00～15:30） 防災科学技術研究所 長岡雪氷防災研究所
～2002 年 4 月 30 日（火）	『第 2 回雪のデザイン賞』募集 中谷宇吉郎雪の科学館（〒922-0411 石川県加賀市潮津町イ 106 TEL:0761-75-3323）

『ニューズレター雪氷北信越』の配付は、郵送または電子メールで行っています。
配付方法の変更は、ニューズレター編集担当の竹井で受け付けています。
支部会員の消息欄を設けています。身近な会員の消息情報をお寄せ下さい。
なお、次号は 2002 年 2 月 10 日発行予定です。掲載情報および原稿等は 1 月 20 日頃までに、お近くの編集委員またはニューズレター編集担当までお寄せください。

新潟地区編集委員：小南靖弘，梅村晃由，佐藤和秀，佐藤篤司，横山宏太郎，和田 惇

長野地区編集委員：鈴木啓助，新田隆三 富山地区編集委員：川田邦夫，飯田 肇

石川地区編集委員：矢田 豊，小川弘司 福井地区編集委員：伊藤文雄，宇治橋康行

ニューズレター雪氷北信越

発行：（社）日本雪氷学会北信越支部事務局（石坂雅昭）

〒940-0821 長岡市栖吉町前山 187-16 防災科学技術研究所長岡雪氷防災研究所内

TEL:0258-35-7522 / FAX:0258-35-0020

編集担当：竹井 巖

〒920-1181 金沢市金川町ホ 3 北陸大学

TEL: 076-229-6233 / FAX: 076-229-2781 / e-mail: i-takei@hokuriku-u.ac.jp